

# 農学部 OPEN CAMPUS 2026

日 時

2026年 8月 7日 (金) 【第1部】 9:00~11:00  
【第2部】 10:30~12:30

会 場

全体説明：岡山大学創立五十周年記念館（岡山市北区津島中1丁目1番1号）  
研究室見学：岡山大学農学部（全体説明終了後、担当教員が誘導します。）  
保護者説明会：岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

8月7日(金)

## 1. 日程

第1部	第2部	内 容
		※第1部、第2部とも同じ内容です。
9:00~ 9:15	10:30~10:45	受付
9:15~ 9:45	10:45~11:15	学部長挨拶、学部概要説明など
9:45~10:00	11:15~11:30	移動
10:00~11:00	11:30~12:30	研究室見学

## 2. 研究室見学

見学を希望するプログラム別に施設見学・研究内容紹介を行います。

- ・生物生産プログラム
- ・農芸化学プログラム
- ・植物科学プログラム
- ・動物科学プログラム
- ・環境科学プログラム

研究室見学を希望する場合は、全体説明終了後、プログラム別の研究室見学担当教員が見学場所へ誘導します。

別途開催の生殖補助医療コースの説明会（ART 企画）に続けて参加希望の方で、研究室見学にも参加希望の方は、ART 企画開始前まで動物科学プログラムを見学ください。

〈各プログラムの紹介・研究室見学概要〉

## 生物生産プログラム

農作物とその生産技術に対する多角的な理解を深め、さらに発展させるために、AI や ICT などのコンピューターテクノロジー、遺伝子解析に代表される分生物的手法、農業経済的手法、雑草防除

等災等栽培環境の管理手法などを活用し、農作物生産の様々な課題を解決するための研究を実施しています。園芸学、作物学、雑草学、農業工学、農業経済学を専門とする研究ユニットから構成されています。研究室見学では、このうち2研究ユニットの圃場・温室・実験室などを見学します。

#### 農芸化学プログラム

農芸化学という学問は「基礎」と「応用」が渾然一体となった体系を持ち、人や技術を介して産業と強くつながっています。学生は、化学と生物の幅広い分野の基礎知識と専門知識を修得し、卒業後は多くの学生が大学院へ進学します。また、食品・化粧品・化学・医薬品関係などの企業や官公庁で活躍しています。今回は、動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する物質、食品と健康などを、主に化学的な考え方に基づき基礎から応用まで広く研究する6つの研究室を見学します。（すべての研究室を見学できない場合もあります。）

<6つの研究室> 天然物有機化学、生理活性化学、食品生物化学、生物情報化学、微生物化学、細胞システム化学

#### 植物科学プログラム

イネ、ムギ、サツマイモ、モモ、メロンなどの農作物、あるいはシロイヌナズナ、ベンサミアナタバコ、ミナトカモジグサといった実験植物を対象として、有用機能の分子生物学的解析や遺伝的改良、収穫後の生産物貯蔵・流通・加工技術の開発のように、作物生産に付随する生命現象を生理学的・生化学的・遺伝学的・分子生物学的・進化的に究明・応用する教育・研究を行っています。植物病理学、植物育種学、園芸利用学を専門とする研究ユニットから構成されています。研究室見学では時間の関係で選抜したユニットの紹介となります。

#### 動物科学プログラム

今年度は、動物生殖細胞工学および動物生理学の2つ研究室を紹介します。動物生殖細胞工学では、家畜の効率的生産およびヒトの生殖医療への貢献を目的に、動物の生殖細胞の発生工学的解析による受精や発生現象の解明を行っています。一方、動物生理学では有用動物の生理学的な性質や病態に基づく生理機構の解明を行っています。今回は、その研究内容の紹介とともに、動物生殖細胞工学ではウシ精子とブタ卵の観察を、動物生理学では病原体に感染したニワトリの病理標本の観察を実施します。

#### 環境科学プログラム

生物群集の構造や進化、生態系の機能、さらには人間・社会経済と環境との関係について、学際的にアプローチする文理融合型プログラムです。これらを通じて、ローカルからグローバルまで、さまざまなスケールの環境と人間の関係について深い知識を身につけ、国際的に活躍できる人材を育成します。

見学ルートの概略は下記の通りです。

- ① 植物や森林の生態に関する研究についてご紹介します。
- ② 昆虫の進化、生態に関する研究について分かりやすくお話しします。
- ③ 「農村工業化がもたらすもの、変わりゆくベトナムの農村」についてお話しします。